

全発表者の氏名, ふりがな

- 藤瀬多佳子(ふじせ たかこ)^{1), 2)}
 - 河村康二(かわむら こうじ)^{2), 3)}
 - 河村サユリ(かわむら さゆり)^{2), 3)}

・ 全発表者の所属

- 1) 元 JICA シニア海外ボランティア
- 2) NGO 南太平洋医療隊
- 3) カワムラ歯科医院

・ 筆頭著者の住所, 電話, ファックス番号, メールアドレス

住所: 〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-1-32-901,
電話番号: 092-791-8997
ファックス番号: 092-791-8997
メールアドレス: fusse627@gmail.com

・ 分類 A と B

分類 A(国際協力)

・ 抄録タイトル

南太平洋トンガ王国ババウ諸島における学校歯科保健アプローチ
～2年間の長期ボランティア活動記録～

・ 発表形式(口演またはポスターを選択下さい)

ポスター発表

・ 抄録本文

【要約】

日本国際協力機構(JICA)のボランティアとして、南太平洋トンガ王国ババウ諸島に2年間派遣され、小児歯科医師として活動を行った。慢性的医療関係者不足の中、小学生のう蝕有病者率は97%と高いことがわかった。状況改善のために、教育省と連携して学校保健アプローチを行い、現地の人にも持続可能なシステムを構築し、健康観の育成に貢献した。

【目的】

トンガ王国は南太平洋に浮かぶ島国で、約170の島々、4群島からなる。歯科医師数は全人口11万人に対し7名。内、歯科医師1名が、首都トンガタプ島から約275km離れたババウ島(人口1万6千人)に常勤している。南太平洋医療隊は、1998年よりトンガ保健省と協同して、トンガタプ島およびハーパイ諸島において、小学校巡回歯科保健プログラム(歯磨き指導

およびフッ素洗口(通称マリマリプログラム)を実施、支援してきた。トンガ保健省は健康格差改善のため、今回初めて、ババウ諸島への小児歯科医師派遣を JICA に要請。それに応え、2007年3月～2009年3月の2年間現地に滞在し、学校歯科保健に照準を当てて活動を行ったので報告する。

【対象と方法】

対象:ババウ諸島の小学校全32校の小学生(ババウ本島21校、約2500名、離島11校、約300名、合計約2800名)および幼稚園11園の園児(約200名)

方法:現地の小児の口腔内の現状を把握するために、以下のことを実施し検討を行った。

- (1) WHOの調査に協同しババウ諸島の全小学1年生407名の歯科健診(2007年5月)。
- (2) ババウ諸島全小学生2504名(2008年3月)および幼稚園児163名(2008年10月)の歯科健診。

【結果】

- (1) 2007年ババウ諸島の小学1年生のう蝕有病者率は95%、dmftは8、DMFTは1だった。
- (2) (1)の結果より、う蝕予防を最優先課題とし、ババウ諸島におけるマリマリプログラムを計画立案。2007年6月より、ババウ本島21校に関しては毎週、離島11校に関しては、毎月のフッ素洗口液の配布と年2回の巡回訪問指導を実施した。
- (3) 2008年の調査で、う蝕有病者率、dmft、DMFTはそれぞれ、幼稚園児91%、7、0、小学1年生93%、8、1、2年生98%、8、2、3年生99%、7、3、4年生98%、5、3、5年生97%、4、4、6年生96%、3、5であることがわかった。
- (4) 2008年10月より、マリマリプログラムを島内幼稚園11施設に拡大した。
- (5) う蝕のない子どもへは表彰状を、要治療永久歯を持つ子どもへは連絡カードを作成、配布した。
- (6) 歯磨き指導方法を統一するためにポスターを作成し、小学校の各教室に配布した。
- (7) 2年間の活動中、小学校・幼稚園の教育関係者および保健省歯科スタッフを対象に、ワークショップ、講演を度々行い、意見交換、質問調査等行い、連携を強めた。

【考察】

トンガ王国ババウ諸島の小児のう蝕有病者率はきわめて高く、先進諸国からの食文化の流入、ライフスタイルの変化により、10年前より重症化していることがわかった(文献1)。

慢性的医療従事者不足、資金不足、材料不足と問題を抱える開発途上国において、疾病予防対策は最も重要である。生活用水は天水依存、一世帯の子供の数が多く保護者のケアが期待できない現状で、小児自身に口腔衛生の重要性を体得させ習慣化させるマリマリプログラムは、極めて効果的であると考えられた。地道な子どもたちへの指導の結果、上級生たちが下級生に指導する姿を見るようになり、小学校教諭のプログラムへの協力度と理解も向上し、波及効果が見られた。学校保健アプローチは、健康観のみならず、将来的保健医療人材育成という点からも、プログラムは有効であると考えられた。

長期派遣ボランティアの特長は、現地に根ざし、同じ目線に立ち、できることから協同して活動を行える点にある。現地の人との Face-to-Face コミュニケーションを通じ、作成したデータベースを基に、具体的な目標設定を行うことによって、保健省、教育省関係者のモチベーションを強化し、現地の人による持続可能なシステムの構築と基盤作りに貢献できた。

2年間のボランティア活動を支援してくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

【文献】1) Goldsmith DA. FDI world, 1999, 5:22-24

- キーワード (3 単語まで)

- 1) 国際協力
- 2) 学校歯科保健
- 3) トンガ王国